



# 会報

第59号  
発行者  
全国国公立幼稚園・こども園  
PTA連絡協議会  
会長 山崎 篤史  
事務局  
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31  
玉島テレビ放送(株)内  
印刷  
株式会社玉島活版所

全国国公立幼稚園・こども園  
PTA連絡協議会

## 「ごあいさつ」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会  
会長 山崎 篤史



全国各地におきまして、子どもたちのために幼児教育、家庭教育に奔走されております仲間の皆さん、いつも本当にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、いつまで忍耐を強いられるのかと辟易とした気持ちになってしまいましたが、そうもばかり言っていられないのが教育を司る園であり、子どもたちの拠り所である家庭であると思います。

社会の構造を再構築しなければならないようなインパクトのある課題に対して、柔軟により良い方向性を導き出していく手段として、すべてに即効性を求めることはできませんが、教育という選択肢について、大きな希望を抱いています。正に現在の状況におきまして、子どもたちを取り巻く様々な課題につきましては、幼児教育を軸に解決方法を模索していくことが、明るい未来への近道なのではないかと思っています。

令和3年度全国国公立幼稚園・こども園PTA全国（新潟）大会は、リモートにて開催されました。このような時勢に新潟を冠する大会を開催できたことに感慨を覚えます。本当に、ありがとうございました。

新潟県に所縁のある上杉家。それに連なる米沢藩9代藩主上杉鷹山公の教えに三助の思想があります。「自助・共助・公助」の考え方です。自分のことは、自分です。できないことは、地域で何とかする。それでもできない時は、公的な機関で何とかするという社会システムの礎を成す考え方であると思います。

では、現状は、どうでしょうか。自分（家庭）のことで手一杯、仕事（職場）のことで手一杯、予算（公的な措置）が無いからできません。皆さんの周りで、こんな雰囲気が蔓延していませんか？そして、共助を司る地域（の教育）力は、仲間の減少とともに弱まっているのではないですか？これまで私たち幼稚園・こども園PTA

は、地域の教育力の源泉となってきました。これまでのPTA組織は、組織の改編や会員数の減少により窮地に立たされています。共助の人材の供給源が無くなって、社会のシステムが機能していくのか疑問です。私たちは、子どもたちの明るい未来のためにも、共助の組織がより良く承継されていく仕組みづくりをしなければならないと感じています。

その折、令和3年12月（コロナ第6波以前）、次年度全国大会開催地である山口県（山口県庁、下関市役所等）を表敬訪問させていただきました。その帰路、萩市にある松下村塾に行きました。そこに松陰語録が記された学びの道という歩道があり、語録の一つに足が止まりました。「凡そ人の子のかしこきもおろかなるも よきもあしきも 大てい父母のをしへに依る事なり」と記されていました。ここで言う父母とは、小さな意味ではないと考えます。

前述の上杉鷹山公は、藩主を継いだ時に「受け継ぎて 国の司の 身となれば 忘るまじきは 民の父母」と詠んだそうです。

二人の偉人の言葉を読み解くと父母とは、家庭・地域・国のリーダーであり、または、リーダーに求められる資質こそが、父母の惻隱の情であるということではないかと思料します。つまり、今この文章を手にとって読んでいただいている父母（様々な立場の大人、リーダー）の皆様全員の力で、その目に映る子どもたちを明るく正しく教育の力によって導いていただきたい。そのための自己啓発（研修）組織が、PTAだと思っています。

子どもたちの笑顔と健やかな成長を守っていくことによって、様々な現場において忍耐を強いられている仲間の皆様の生活が改善していく。その過程において、必要不可欠な要素が幼児教育でありPTAだと思います。今後とも、ご理解ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

# 第59回 全国国公立幼稚園・こども園全国大会 新潟大会

## 新潟大会のご報告

新潟大会運営委員長 大島 洋平

まずもって、初めてのオンラインでの全国大会が無事に開催できましたことに、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。無事に開催できましたのも、会長の山崎様はじめ、前会長の猪木様、役員、理事の皆様、そして全国のPTAの方々を含め、多くの方々のご協力があったからこそだと思っております。

全国の皆様を新潟県にお招きし、直接顔を合わせて意見交換ができなかったことは非常に残念でしたが、一方でオンライン開催でのメリットもあったと感じております。

一番のメリットは何といても“誰でも参加することができた”という点です。今までは、会場に足を運ばなければ参加できませんでしたが、オンラインにより、誰でも気軽に参加することが可能となりました。やはり、今までは行きたくても行けない方がたくさんいらっしゃったと思います。また、

集録だけではその場の雰囲気がなかなか伝わりにくかった部分もあるので、画面越しではありますが、多くの皆様から全国大会の雰囲気を少しは感じていただけたと思っております。

しかしながら、個人的には初めてのオンライン開催を無事に終えて、ほっとしたという思いと共に、「皆様と直接お話しがしたかった」という思いが大変強かったです。オンラインでのメリットもありましたが、やはり現地にお招きして盛大に開催することに越したことはないと思っております。

結びに、まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されますが、そのような中でも国公立幼稚園・こども園の子どもたちと、そこで行われている教育を守るために、今後も全国PTAのつながりをますます強めてまいりましょう。

次回開催の山口大会では、これまで以上に盛大に開催され、皆様とお目にかかれますことを心よりお祈り申し上げます。

## 新潟大会宣言文

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、1963年の設立以来、半世紀以上にわたり未来の創り手である子どもたちを健やかに育むために活動してきました。私たちPTAは、家庭と園が相互の教育について理解を深め、手を携えながら子どもたちの成長を支えてきました。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、価値観の変革や多様化、ICTの急速な普及など、世界全体は大きな変換点を迎えました。変化が急速で予測が困難なこの時代は、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わってきています。その中でも少子化問題は最も深刻な課題の一つとされています。2019年10月から始まった「幼児教育無償化」は、未来を担う子どもたちへの必要不可欠な投資であると考えます。幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培うために重要なものです。今こそ、幼児期における教育の大切さを再確認し、家庭と園、地域が力を合わせ、未来に羽ばたく子どもたちが笑顔で育つことができる教育環境を整備し、幼児

教育の充実に向け力を合わせていくことが大切です。

そこで新潟大会では、「羽ばたく未来に 朱鷺（トキ）めく子どもたち ～笑顔の花を咲かせよう 自然豊かな新潟で～」を大会主題に掲げました。未来に羽ばたく子どもたちのために、幼児教育の重要性和家族の役割の大切さを学び、笑顔で語り合い、次のことを宣言します。

- 一、幼児期における教育の重要性を広く社会に訴え、幼児教育の充実を目指します。
- 一、家庭・園・地域が手を携え、子どもたちの笑顔を健やかに育みます。
- 一、PTA活動を通して自己研鑽し、家庭の教育力向上に努めます。
- 一、様々な人とのつながりの中で、思いやりを大切にしてPTA活動に取り組みます。
- 一、子どもの安全確保、園の安全管理の強化に努めます。



## 記念講演

大人も子どもも夢を叶えるために  
今 私たちにできること

講師 新潟県糸魚川市こどもの主任教育相談員 横澤 富士子 氏



全国のみなさんこんにちは。横澤夏子の母、横澤富士子と申します。今日は「大人も子どもも夢を叶えるために 今私たちにできること」という演題で全国の皆様と一緒に勉強させていただきます。私は実は生まれも育ちも東京都墨田区なのです。私の夫と運命的な出会いをしまして、東京から糸魚川に嫁いで、もう32年になります。新潟県にお嫁に来てよかったな、とっても糸魚川ってよいところだな、ということを始めにお伝えしたいと思います。私自身は4人兄弟の長女なのですが、私は3人の子どものお母さんになることができました。長女は横澤夏子です。横澤家がいかに糸魚川市に育てていただいたか、エピソードも含めて、子どもにとって本当にいい親ってなんだろう、子育てにはどんなことが大切なのだろうということと一緒に考えていける時間になればいいなあとと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

まず始めに、私が糸魚川・新潟県に嫁いでよかったなあとと思うのは、糸魚川ってすごいのです。日本一の子どもの、みんなで一貫教育で育てようという取組をしています。その3つの柱を一番最初にお伝えしますね。糸魚川市は脳科学の黒川伊保子先生をお呼びして、脳科学の立ち位置から何が一番子どもの成長にとって大切かということを知り、このプレートを保健師さんが作ってくださったのです。脳は1階、2階、3階の3階建ての脳で成長発達していくそうですよ。

1階の脳が一番大切で、早寝・早起き・おいしい朝ご飯が一番脳の土台になるよというお話です。特に糸魚川市は、おいしいを付けたのには理由があります。おいしいの意味は、タンパク質なのです。タンパク質って何かというと、卵や魚

やお肉大豆製品のことをいいます。タンパク質のある朝ご飯を食べてくださいということなのです。そうすると脳の土台ができますよ。

1階の脳がカチッとはいると、今度は2階の脳ですよ。2階の脳は心が育っていく部分です。心、「みんなと仲良く」というのが育ちます。心はですね、嬉しい気持ち、悲しい気持ち、怒り、怖いという気持ち、ゲシュタルト療法の交流分析の先生が本物の気持ちというのはこの4つに分類されるとおっしゃっています。嬉しいという気持ちは簡単ですね。「お母さん今日幼稚園で楽しいことがあった。」「嬉しかったね。」あるいは怒りの感情が出てきたときは、「お母さん、もう今日嫌なことがあったよ。」「どうしたの。」「もう本当に腹が立つ。」夏子はとにかくこの感情を上手に出せる子で怒ってました。「今日は〇〇ちゃんがほめられたんだよ。夏子だってがんばっていたのに、〇〇ちゃんばかり先生はほめているんだよ。夏子もうがっかりだ。」という怒りの感情をぶつけていました。

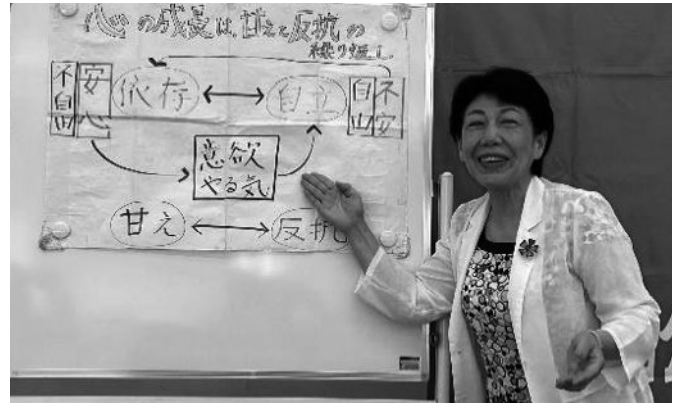
子どもが嬉しいとか悲しいとか怒りとか怖いとかそういう感情を先生方や保護者の方にぶつけてきたときは、コッパがあるのです。心を育てるコッパですよ。まずいったんは受け止めてほしいのです。「あー嬉しかったね。」「あーそれは怒りの当たり前だよ。嫌な思いしたね。」とかそんな形で、受け止めてあげてほしいのです。

私の失敗談。夏子が保育園に通っていた4歳の頃、私は夏子が初子で、一緒に保育園に行かずずっと保育参観をしたいぐらいのお母さんでした。でもそういうわけにもいきません。なっちゃんをお迎えに行き、「なっちゃん今日どうだった?」と聞くと、年少の夏子は「まる」こんな感じなのです。「まる?何かいいことあったんだな。何があったの?」という感じなのです。「バツ」って言う時もありました。「そうすると、なっちゃん、バツってどういうこと?何かあったな。」という感じですよ。もう知りたくてしょうがない。そういうお母さんでした。ところが何にも言わず、静かに下を向いてとぼとぼ帰ってきた時があったのです。「あー、これは言葉にならない何かがあったんだろうな。どうしたんだろうな。」と、私は本当に心配しました。でもそういう時というのは、案外声をかけられないのです。とぼとぼ帰っていく道中で、「お母さん」って今でも泣き出しそうな感じで、「お母さん今日ね、私〇〇君が大好きなのに、〇〇君は〇〇ちゃん



んが好きなんだって。」って言ったのですよね。これはショック。その当時私は専業主婦だったので、こんな理論も知らなければ自分の経験値しかなかったので、保育園児で〇〇ちゃんが好き、そして〇〇ちゃんにとられたっていう感情があるんだ、おそろべし保育園児くらいに思ったのです。私は夏子と同じ感情になって、「どうしてなっちゃんじゃないのよ。」と心の中では思うわけです。親ばかりでしょう。今思えば、客観的に冷静にお話できますが、その当時の私は、一緒になって泣いていました。一緒になって怒っていました。

私がこの4つの感情が大事ですよというのは、意味があります。何でかという、みなさんの中で一番やっかいなのは、怒りじゃないのですよ。この怖い感情です。何で怖い感情かというと、目に見えないものをおっかながる子どもたちって、例えば鬼とか、鬼なんていないはずなのに、節分の近くになると、また豆まきするの、鬼が来るのと、えらく恐怖におののいている子どもたちっていませんか。この怖いという感情は非常にやっかいです。目に見えるものを怖い怖いと言っているのなら問題ないです。「怖いよね。お母さんも怖いわ。」という感じで受け止めて、怖い気持ちを感じて、待つればいいのですよ。これがコツなのです。心を育てるコツですよ。怖い感情が出てきたとき、あるいは怒りでも悲しみでも、受け止めて待つのですよ。待っているとですね、子どもはまたしゃべりだします。まだまだ幼稚園児保育園児は幼いのです、言葉で表現するというのは難しいです。「怖い怖い、やだよやだよ」。と言ったらですね、「あー、やなんだね。あー、怖いんだね。」と言って、何でこの子は怖いと言っているのだろう、何でこの子は泣いているのだろう、どうしたのかなというふうに感じながら、じいっと、でんと構えて待つればいいのですよ。それがコツです。これは親子ではなかなか難しいです。私は今でさえ待てません。なっちゃんは突然電話をかけてきてマシンガントークが始まるのですが、電話がかかってきたということは、どういうことかということ「何かあったんだな。」でも「何なの。何なの。」と聞かないで、じいっと待つ、じいっと心を傾けるのです。これは心理カウンセラーの方、保育士さん、とても上手です。そういう意味では保健師さんや保育士さんや学校の先生方に色々な方に助けてもらいました。それでも、私が失敗したというのは、第1子は本当に初めての子育てなので、大変なのです。もうはじめてのことばかりだから。だから夏子がですね、そうやって何にも言わないでとぼとぼ歩いて、はたまたさっきのように「バツ」って言ったあかつきには、待てないし、「何かあったの言ってごらん。お母さんが何とかしてあげるから。」という具合に、非常にだめだめなお母さんでした。時には、悲しいという感情を出すお子さんもいます。これは、第2子・第3子・第4子が生まれてからです。1子までは何とか待っていくのですが、第2子が生まれてから本当に大変でしたね。



夏子は自分の思いをバーンと出せる子、言葉は出せなかったのですけど、2歳の時ですね、第2子が生まれたので、お姉ちゃんになったのです。いやあ大変でした。私は東京生まれ、東京育ちだったので、二人目までは東京で出産しました。いやあちょっとかわいそうなことをしましたね。「お母さんが、これから赤ちゃんを産みに行ってくるからね。いい子で待ってるんだよ。必ず帰ってくるからね。」というのを伝えないうまま、ある日突然産院に行ってしまったのです。そうすると、子どもがまだ2歳になるかどうかの発達段階で、今までいたお母さんがある日突然いなくなる。何でお母さんはいないのだろう。怖い話ですよ。子どもの身になれば。けど出産を無事終えて、何で私の病室には誰もお見舞いに来ないのだろう。本当に第2子出産の時には誰も来ないのです。私自身は本当に悲しかったのだけど、私の母がなっちゃんに「お母さんに会いに行こう。赤ちゃんにも会いに行こう。」と産院までとことこ歩いて行き、毎日産院まで向かうのだそうです。ところが近づくと、やだと言って夏子は泣いて行けないのだそうです。母は一人で困って「分かった。じゃあ帰ろう。」と自宅に帰るわけですよ。「だから富士子ちゃんお見舞いには行けなかったのよ。」って言われた時に、あーそうだったか、私には子どもの身になって考えるというゆとりは全くなかったの、あー随分かわいそうなことをしたなあって反省しましたね。

もっとすごいエピソードがあるのですよ。第2子のお産が無事終わりました。糸魚川にはすぐ帰ってくる。ある時、横澤の父母がじじばばのところ泊まりに来るかと、言いました。そしたら夏子は「うん」と言ってね、連れて行かれました。私は二人目のお母さんで大変だと思ったのじゃない。私たち若夫婦は本当に一人だと助かるね、と羽を伸ばしていたのです。そうしたら、夕暮れになるとなっちゃんがわんわん泣くのだそうです。お母さんがいないお父さんがいない。帰りたいでも帰りたいと言えない。とにかく大泣きしたのだそうです。そしたら、おじいちゃんもう一杯飲んじゃったから、おばあちゃんは運転できないから、「今日は帰らん。なっちゃんがここへ来るって決めたんだからだめだ。明日の朝ちゃんと送ってあげるから、黙りなさい。」と2歳の子に言ったの



だそうです。これが男の方ができる社会性なのです。今、社会性が育たないと感じてられる方もいるかもしれませんが、お父さんに頑張ってほしいのです。わずか2歳でも自分が決めたことは、自分で責任を取らすという事なのです。今そのような厳しい面やちゃんとしたあるべき行動をとれるお父さんがどれくらいいるかということなのです。

「えっそんなことがあったんですか、お母さん」って、私はその話を聞いたとき、大泣きですよ。そういう話を聞いて、私の夫はどう考えるかという「そりゃそうでしょう。」とこうなんですよ。やっぱり親子でしょう。男子ってそういう厳しいところがあるのです。これが大事なのです。ひとり親の人はじゃあ社会性をどうすればいいのと言ったら、大丈夫です。お父さん代わりになる人、じいちゃんでもいいし、私の父は高校2年生の時に心臓疾患で急に亡くなったのですが、母が父さんの分も母さんの分も二人分を途中からですがやっていましたよ。それでいいのです。ひとり親の子どもはちゃんと育たないかという、そんなことはありませんよ。子どもはちゃんと力がありますから、障害があってもなくてもちゃんと育っていく力って、ちゃんと子どもに備わっています。持っているのです。

ここの2階の脳は心なので、みんなとなかよくというのは、この4つの感情をしっかり育てていきましょと皆さんにお伝えしたくて、糸魚川市が作ったこのボードを持ってきました。

じゃあ3階の脳はどうかというと、やっとここで考えるという事、勉強する事、我慢するという事、ここでやっとこの高度な脳が入ってきます。信号は青になったら渡ろうとか、やけどをしないように注意しようとか、いろんなことを3階の脳がちゃんと育ていけばちゃんと自立する子どもに育っていくのですよ。

我が家横澤家は、早寝早起きおいしい朝ごはんから始めて、心を育てて、そして3階の脳、お勉強。お勉強は学校の先生の役割なので、私はお勉強しなさいと言ったことは1回もありません。勉強は自分からやる気になったらやりますので、親や祖父母が家庭教師の様に、さあ勉強だとやればやるほどやらなくなっちゃいますよ。ですから、いかに子どもをやる気にさせるか、学校の先生はプロですからお任せしましょう。

では、1階2階3階の脳はいくつまで育つのでしょうか。糸魚川市では九つまでが勝負ですよといったのが10年前、今は何と六つまでに頑張らましょと、言ってますよ。小学校に入る前までに頑張らせましょよ。家庭教育と幼稚園・保育園、あるいは地域の力ががんばりましょね。じゃあどうすればいいのと言ったら、特に小さいお子さんは、遊びなのです。保育園、小さければ小さいほど遊びがコミュニケーションなのです。ですからお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんは、とにかく会話をしてほしいの。お家で。コミュニケーションとはとにかく赤ちゃんであろうが高齢者であろう

が、やっぱり会話ってすごく大事なのです。できれば美しい言葉で赤ちゃんに対しても、保育園児幼稚園児に対しても伝えてほしいのです。私はこれ大事だと思います。なぜならばコミュニケーション能力が、社会人になっても大事という事なのです。コミュニケーション力というのは相手のわけのわからない言葉や気持ちが分かる事なのです。簡単に言うと、分かろうとすることなのです。

私が一番困っているのはですね、反抗期です。今日は反抗期のこの図、これを覚えて帰っていただくだけでも意味がありますよ。第1次反抗期、中間反抗期、自立のための反抗期と言って、大きく反抗期は3回くらいあると言われているのですが、順を追ってお話しますね。心の成長は、甘えと反抗の繰り返しで発達していきます。おぎゃあと生まれた赤ちゃんは、何にもできません。不自由な世界を生きています。それでもお母さんやお父さんやおじいちゃんやおばあちゃんに安心をもらいます。どうして安心をもらえるのという泣けばお世話をしてもらえからです。泣いてると、おしめがぬれているのかな、ミルクかな、というふうに。いっぱい依存した赤ちゃん、甘えた赤ちゃんが安心をもらえるのです。安心するとちゃんと赤ちゃんの中にやる気が出てくるのです。意欲やる気が出てくると、自立に向かうのです。自立に向かうとはどういうことかと言うと、反抗するのです。食べさせようとしても首を振る、反抗します。イヤイヤ期です。でも実はお母さんの言うことを聞かなくなる、反抗するという事は、ちゃんと意欲やる気が出てきている証拠なのです。自立に向かうわけですよ。自我の芽生えですね。2歳ぐらいです。子どもの身になって考えると、やったあ自由を手に入れた、お母さんの言うことなんか聞くもんかという感じです。自由に気ままに任せればいいのですが、時期不安になります。2歳の子は何にもできません。一人では生きていけないから、不安になります。不安になるとお母さんに甘えます。甘えと反抗を繰り返して発達していきます。だいたい半年ぐらい様子を見てください。イヤイヤ期は収まります。

中間反抗期というのは、小学校1・2年生です。小学校1・2年生も親泣かせ。そして小学校1年生の担任の先生は大変です。一昔前は、30年くらい前は、担任の先生は案外できていたかもしれません。今の子どもたちは十分愛情はもらっているのだけれども、だめなことはだめだよというしつけがなされていない、教えてもらってないので、小学校1年生の担任がそれを教えているのです。だから自由気ままな1年生がとっても多いので、大変です。だけどそこはプロですからさすがですよ。1年生の先生はちゃんと愛情を入れてしつけを入れて教育をされていますね。

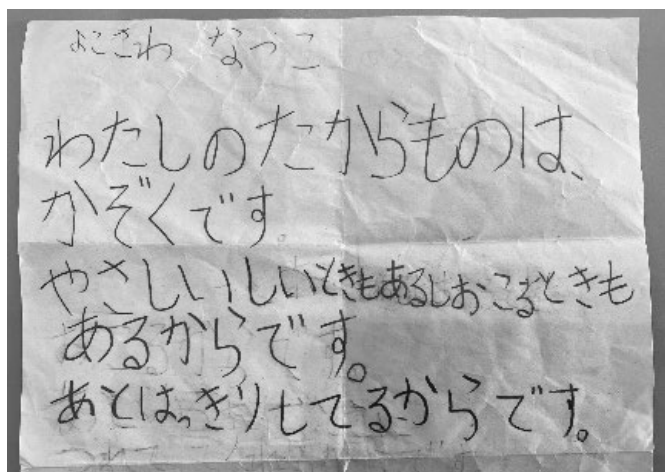
心の成長は甘えと反抗の繰り返しと言いましたが、最後の反抗期は思春期ですよ。早いお子さんは5年生くらいから始まる。そんなに5年生から14歳くらいになると大変なの、

怖いと、第1子の子育て中のお母さん方はびっくりするとか、やだ怖いというお母さん方がいるのですが、安心して下さい。いきなり保育園児からほんとと中学生になるわけではないので、ちゃんと連続性で育っていきますので、大丈夫なのです。親子ですから大丈夫なのです。

心の成長は甘えと反抗の繰り返しで成長していきますから、この十分甘えた赤ちゃん、甘えた子どもがちゃんと反抗して自立していきます。自立するという事は自分で働く力、自分で自分の洗濯もするし、自分で自分のご飯も作るし、だから一人暮らしができる力ということなのです。みなさんできますか。甘えるという事は、「お願いやってー」と頼むことではないのです。「今は忙しいからできないけど、やっていただけませんか。すみませんお願いします。」とお願いするのはオッケー。でも教育されてない子どもはできませんよ。そういうスキルを誰が教えるのですか。それを教えるのは、私は親だと思います。しつけは親なんですよ。もっと言ったら、おじいちゃんおばあちゃん、自分の孫が可愛かったら、だめなことはだめだよって、甘やかすばかりじゃなくて、教えるってということがとても大事です。

まとめに入りますよ。日本一の子どもを育てるための糸魚川市の3本柱の1つ目は、愛着形成です。愛着形成というのは、ボウルビーという学者さんが言ったアタッチメントです。子どもがお母さんから愛されているって感覚的に入るのです。お父さんでもいいですよ。もちろん保育士さんでも先生方でもいいですよ。ボウルビーという学者さんは、0歳から2歳までに入ると言ったんです。「それじゃあ手遅れじゃない。」って保護者の方が心配になっちゃう。和歌山大学の米澤好史先生という方が糸魚川に来て、いつでも誰とでも何歳からでも愛着は入りますよということをおっしゃいました。だから子育ては手遅れはないのです。僕は愛されている、僕は大切にされているって、感覚的に入ればそこからのスタートでも全然遅くないのです。

2つ目は1階の脳、早寝早起きおいしい朝ごはんが2つ目の柱です。



3つ目の柱は自己肯定感。これは簡単に言ったら、自分が好き。私は私のことが好き。糸魚川市の子は自分が好きと感じる子どもに育てていきたいのです。誰がするの。子ども自身がちゃんとその力を持ってるのですよ。でも最大限に子どもの力を育てるのは、私は親だと思います。私は日々のお仕事の中で、どれだけお父さんがお母さんが頑張っているかを感じています。もちろん子どもも頑張っているのですよ。でもこの愛着形成は、条件付きじゃあだめなの。100点取ったからご褒美あげる、そんなのはダメなのです。さっきエピソードで2歳の時に帰りたいって、やけ言っていましたよね。それをどうやっておじいちゃんが沈めたか。「帰れないぞ。」とどなったわけではないんですよ。夏子を抱っこして、「帰りたいよな。うん。でもだめなんだ。」とどうにもならない思いを抱っこして受け止め、わかってあげようとして、気持ちが落ちつくまで待つという事なんですね。そういうことで気持ちを抑えた子どもが、ちゃんと自己コントロールもできてやっぱり愛された子どもだと思うの。

今日は私のとっておきの宝物を持ってきましたよ。最後にそれをお見せして終わりにしようと思いますよ。子どもを育てるとき何が大事かと言ったら、お母さん方これを見て下さい。これは夏子が小学校2年生の時に書いたものです。2年生の時、こんな文章を書けるようになるんですよ。これも見て下さい。「おかあさん、おめでとう。そしていつもありがとう。これからもよろしくね。」私が39歳の時に、夏子が5年生くらいの時かな、お誕生日の時にくれました。お誕生日の時のプレゼントは、お手伝い券です。お母さん方希望をもってください。今赤ちゃんでも、子どもはちゃんと育ちますよ。そして愛情を注げばこのようにちゃんと育っていきますよ。保育園の先生方、じじばばも頑張っていますので、どうか希望を持ってくださいね。

今日私がお話したことは、普通の話だったと思います。それでも今日からできること。お母さん方お父さん方、子どもの話を聞いてあげてほしいです。特にパパとママじじとばば、家族が仲よくなってほしいと私は思います。なかなか「パパご苦労様」「ママご苦労様」なんて家族は近すぎて言えないかもしれませんが、我が家は父の日にすごくお父さんを大事にしている子どもたちでした。だからお父さんも頑張っているから、お母さんも「お父さんありがとう。」って自分から変わるのがいいのです。言わずらい時はお手紙に書けばいいのですよ。とにかくけんかしたっていいのです。叩いたり怒鳴ったりする必要はないのですよ。ちゃんと行って聞かせれば、子どもはわかりますよ。でも何回も何十回も言わなければだめってこと。でも必ず子供は成長しますから。どうかみなさんで大切に子どもを育てていきましょう。



## 【千葉県】

園・保護者・地域が一丸となって  
子どもたちの育ちを支えるために

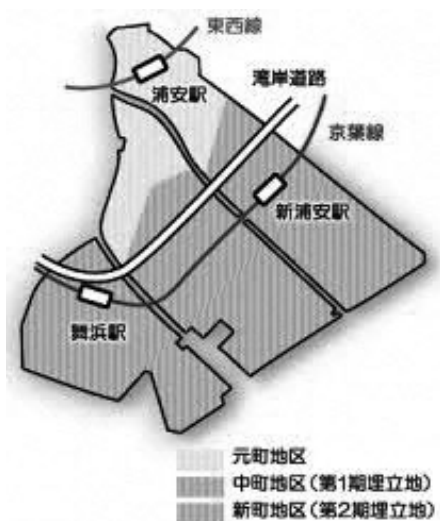
浦安市立明海認定こども園  
令和元年度PTA会長

岡野 純子

## 1 はじめに

明海認定こども園は、千葉県の西端、東京都と隣接する浦安市にあります。浦安市は東京都市圏への通勤率が56.1%と高く、ベッドタウンとしての性質が強い街に変わりつつありますが、明治42年9月に浦安町がスタートし、昭和初期の産業は海苔の養殖やアサリ漁など水産業中心に栄え、境川にべか舟がひしめき合い漁師町として発展しました。昭和44年に地下鉄東西線が開通し、元々漁業の町ではありましたが、昭和46年には漁業権を全面放棄し、埋め立て工事が行われました。元町と呼ばれる当代島、猫実、北栄、堀江、富士見地区、中町と呼ばれる海楽、美浜、入船、今川、東野、弁天、ディズニールンドのある舞浜地区、そして、埋め立て事業が拡大したことから、急速に都市化が進んだ新町と呼ばれる日の出、高洲、明海地区と分かれます。また市域の86%が埋立地で、区画整理された街並みも特徴的です。

人口は17万人。県内10位と人口規模はそれほどでもありませんが、4km四方のコンパクトな街にマンション群が立ち並ぶ立地なので人口密度は県内第1位です。そうした「新しく作られた街」という明海地区の特性から、多くの住民が他自治体からの転入者であるため、地縁血縁が希薄な傾向にあります。そこで行政はまちづくりの過程において自治会活動や市民活動をバックアップし「絆づくり」「ふるさとづくり」



に力点を置いてきています。

また、公立幼稚園・こども園が市内に14園あり充実している点、「幼・保・小・中連携教育」に力を入れている点も特筆すべき特徴です。

## 2 園の概要

本園は、平成6年に開園され今年で28年目です。園児数は、令和3年度は、年少24人、年中44人、年長41人の計109人で市内最大の規模となりました。

開園当時は、2年保育のみでスタートしましたが、保護者ニーズを受け、平成23年から夕方6時半までの預かり保育・“明海キッズ”が、また、令和元年度からは年少クラスが設置され、3年保育が始まりました。共働き世帯も多く、令和2年度のPTA本部役員は全員が2号認定のメンバーにより運営されました。

近隣に公設民営保育園、公立認定こども園、私立認定こども園、私立幼稚園が2園、公立小学校4校、公立中学校2校、私立大学2校と非常に多くの教育施設があります。

また、航空会社の社宅や、ラグビーチームの拠点が近くにあることもあり、海外生活の経験がある園児や外国籍の園児が多く、国際色が豊かな園です。先生方がピアノなどを駆使してノンバーバルコミュニケーションを図ったり、子ども同士が言葉や文化を交流する様子が見られたりし、学びの多様性が感じられます。

新町におきましては、冒頭で申し上げた通り、区画整理された街ですので、道路や歩道の道幅がととても広く、子どもたちは安全に登園することができています。

## 3 様々な連携

## ①園と保護者との連携

## ～有志活動～

本園PTAには様々な保護者有志活動があります。スポーツ部では保護者同士が共に汗を流すことでリフレッシュし、保護者間のつながりを深めています。また、ガーデニング部は園内の花壇への苗植えや水やり、落花生やサツマイモの収穫のお手伝いなどを行います。DIY部は子どもたちが喜びそうな作品を作ったり、劣化した遊び道具を直したりして園生活の充実に寄与しています。読み聞かせ部は定期的に子どもたちに絵本を読み、エンタメ部は歌やダ



ンスを園のイベントの際に子どもたちに披露し喜ばれています。

有志活動のような継続的な活動だけでなく単発で募集をかけるイベントも行っています。近隣公園のビオトープで育った米の藁でしめ縄を作るなど、こういったところからも地域とのつながりを感じることができます。

### ～コロナ休園時～

1回目の緊急事態宣言下で休園していた時、先生方が正門の近くにテントウムシの絵を貼り、各家庭に「散歩がてら是非園まで来てその絵に丸いシールを貼ってもらいたい」という旨が案内されました。

長い休みの間、みんなと会うことは適いありませんでしたが、みんなで一つの作品を完成させるというつながりを断たないための工夫で、子どもたちのさみしさや不安が少し紛らわされたように感じました。



### ②園と地域の連携

#### ～近隣公園クラブ～

園の隣には“明海の丘公園”という大きな公園があります。広大な芝生やバラ園、ビオトープなどがあり、マンション群の中でありながら自然を感じることができます。明海の丘公園クラブというボランティア団体の皆さんと連携し、公園の花壇に苗を植えたり、ビオトープで田植えや稲刈りの体験を



したりして、四季の移ろいを体感することができます。

また、子どもたちと一緒に公園の花壇の花苗植えを学期1回行い、共に育てる気持ちを大切にしています。

#### ～明海オヤジの会～

中町の幼稚園、こども園でも父親の活動が盛んな地域はありますが、明海地区は隣接する明海小学校の保護者であるお父さんたちで結成された“明海オヤジの会”が定着しています。小学生に遊びを通して様々な体験をさせてあげることを目的にした団体ですが、昨今の猛暑の中、こども園の園児たちが熱中症にならないようにとテントを貸し出し、設営を行っていただきました。こうした一つ一つが「地域全体で子どもたちを見守ってもらえている」という実感につながっています。

### ～地域こぞって防犯パトロール～

年に2回、近隣の幼小中PTAや自治会、ボランティア団体、市役所、警察などが一丸となって防犯パトロールを行っています。毎回100人を超える参加者と共にゴミを拾いながら「自分たちの街は自分たちで守る!」という気概をもってパトロール



ルをしています。単にパトロールをするだけでなく、お互いが顔見知りになり、横のつながりが生まれるのもこの催しの大切な意義の一つです。

昨年度はコロナ禍で大勢が集うことができませんでした、「この状況下でも何かできることを」とZOOMを使って情報共有を行いました。市役所から市内の犯罪情報の報告、各団体の活動報告など様々な情報の提供と意見交換がなされました。最後には「地域の連携を強化することで防犯・防災の力を増し、ひいては子どもたちの健全育成に資する」という思いを共有し、地域の力強さ、頼もしさを感じました。



## 4 結びに

冒頭からの繰り返しですが、浦安市はその多くが埋立地できた新しい街で、地縁血縁が希薄な傾向があります。また住民のほとんどはマンション住まいで“古き良きふるさとの原風景”とは異なる街です。

しかし、だからこそ、「地域住民がつながろう」、「連携して有事に備えよう」、「子どもたちの“ふるさとづくり”をしよう」という思いが強いのだと感じています。元町の幼稚園、こども園は逆に新町にはない伝統があります。4年に1回開催される三社祭の際には各自治会が団結し、3か所の神社毎の御輿を担ぎ、盛大に家内安全、地域の活性化を盛り上げます。

子育てや教育は一義的には保護者が、また園が担うものではありませんが、社会の中で揉まれ、そして地域の皆さんと触れ合いながら体得する経験も同様に大切です。

この明海地区の町で親になり、子どもを通じて様々な人たちに出会えたことに感謝しながら、これからも保護者と園と地域が一丸となって子どもを見守り、育てていきたいと考えています。



【埼玉県】

## 子供たちの豊かな感性と 創造性を育むPTA活動

～園、家庭、地域社会、  
関係機関等との連携を通して～



嵐山町立嵐山幼稚園  
全国大会実践発表実行委員会  
実行委員長

清水 千恵

### 1 本園の概要

本園は埼玉県の中央部比企地区にあり、自然環境に恵まれた場所に位置しています。嵐山町や家庭、地域社会、関係機関等と連携し、豊かな体験活動やPTA活動を実施することができます。本園は昭和46年4月に開園し、51年目を迎えました。本年度、年少34名、年長44名、計78名在園しており、家庭数は75世帯です。

敷地内には、埼玉県庁から移築された埼玉県指定文化財日本赤十字社埼玉県支部旧社屋があり、教育活動やPTA行事、地域の拠点として有効に活用しています。

本園は、絶滅危惧種1A環境省1Bに分類されているサワトラノオの保護増殖活動に取り組んでいます。小学校6年生と連携してサワトラノオの苗を植え、一人一人が「マイサワトラノオ」として、栽培や観察をしています。その活動から誕生したマスコットキャラクター「さわとらくん」は、園、家庭、地域の連携のシンボルです。



### 2 嵐山幼稚園のPTA活動

#### ①園教育目標「えがお」と目指す保護者像

教育目標「えがお」○えがおであいさつする子○がんばる子○おもしろいのある子のもと、心豊かでたくましい園児の育成に取り組んでいます。目指す保護者像は、子供の心を受け止める保護者、子供を認め育む保護者、子供とともに育つ保護者です。

#### ②全員参加のPTA活動

本園のPTAは、在園する2年間で保護者全員がPTA役員をする「全員参加のPTA」です。教職員、保護者、地域住民の「チームらんざんで子供たちの成長を見守り、支援する」を合言葉に、「参加体験型のPTA」を目指し、意欲的にPTA活動に取り組んでいます。



#### ③PTAの目的

幼児教育の重要性を理解し、協力して園の向上発展を図ることを目的としています。その目的を達成するために、次の5点の事業を行います。

- ・幼稚園の教育活動の支援をします。
- ・園児の健康増進に関することに取り組みます。
- ・年間行事が安全に実施できるよう協力します。
- ・会員の教養を高めるための事業を行います。
- ・PTAの目的達成のために必要なことを見付け、主体的に活動に取り組みます。

#### ④PTAの組織

会長1名、副会長1名、本部役員を中心に、5部会令和2年度：開園50周年実行委員会で活動しています。

##### 【総務部】

- ・総会の運営
- ・PTA役員決め
- ・運動会準備や運営の協力
- ・鎌形夏祭りへの事業参加



PTAと地域の連携で開催しています。総務部が企画した店を開き地域の方にも楽しんでいただきます。さわとら太鼓を披露しました。



※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のため中止

##### 【広報部】

- ・広報「つくし」の発行

子供たちの活動の様子や笑顔いっぱいの写真を掲載しています。



##### 【文化厚生部】

- ・年度末清掃
- ・運動会ビデオ撮影



コロナ禍ではありましたが、多くの保護者の方々が参加をし、園舎、園庭、日本赤十字社埼玉県支部旧社屋を清掃しました。

##### 【クラス部】

- ・子育て講座の開催

令和元年6月宮崎智美氏「笑顔の循環」  
園教育目標の「えがお」の素晴らしさを語る。





令和2年1月 香田義光氏

「子供の見方を変えてみませんか。  
子供は一人一人みんな違う。よさを  
発見しよう」



令和2年：日本赤十字社埼玉県支部より情報提供

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～」



・運動会前日準備、当日の協力

・運動会小道具作り、遊戯会衣装や壁面等の製作



### ⑤ ボランタリーシステムの構築

【園、家庭、地域で自作の竹楽器の製作「さわとら太鼓」が、  
嵐山町や地域に響く】

竹楽器は、家庭、地域の協力を得て19台製作しました。脚付、ストッパー付きの2種類の竹楽器があります。安全に配慮するとともに、園児も運べるように軽量化されています。竹バチは、保護者ボランティアが製作をしました。保護者の提案で、バチが手から離れないように布を巻き、腕にはめるように工夫されています。家庭で自分の考えたリズム演奏をしたり、町や地域の夏祭り、運動会、町民体育祭で演奏を行ったなど、園児の生き生きとした姿を家庭や地域に知らせることができます。



P T A ボランティアによる竹バチの製作（日赤旧社屋会議室にて）



脚付竹楽器



ストッパー付き竹楽器



竹バチ

\* 令和元年度は、夏祭り、運動会、町民体育祭で演奏

\* 令和2年度は、遊戯室で演奏



嵐山夏祭



鎌形夏祭り



運動会

### 【園ファームの活動支援】

地域の方にお借りしている畑を園ファームとして活用しています。子供たちは、野菜の水やりや観察をする活動を通して



「気付く目」が育っています。

収穫時は、P T A ボランティアが支援をします。



### 【中部環境保全会との連携】

サツマイモ掘りの体験活動をし、焼き芋の  
おいしさを親子で味わいました。



### 【地域と連携したもちつき大会】

園、P T A、地域と連携してもちつきを行います。薪も地域の方にご提供いただきます。すべて臼と杵でつくおもちの  
おいしさを味わうことができ、子供たちは笑顔いっぱいです。  
鎌形地区南部、北部の皆様の協力を得て毎年実施してきましたが、令和2年度はコロナ禍で実施することができませんでした。



### 【家庭料理技能検定の実施】

文部科学省や農林水産省、厚生労働省、日本P T A 全国協議会等が後援する家庭料理技能検定を実施しています。3名の  
実行委員P T A O B が運営し、保護者、園児、教職員、地域の方々の希望者が受検しています。令和元年度、2年度ともに100%の合格率です。学力や体力の基盤となる食の充実を図るため、また心豊かな園児の育成のために食に関する指導に取り組んでいます。この取組が認められ、令和元年度は「文部科学大臣賞」、2年度は「成績優秀団体賞」を受賞しました。



受検会場



一家4人で合格



実行委員

## 3 成果と課題

園、家庭、地域のシンボル「さわとらくん」とともに！

全員参加のP T A を目指し、教職員、地域の方々とチーム  
らんざんで子供たちの成長を支援することができ、成果を上げています。この活動  
を嵐山町民の皆様へ発信する体制作り  
に取り組んでいます。





## 【滋賀県】

育てよう！心豊かな金田の子ども  
『キラッと輝く金田っ子』

～コロナ禍の中でできること～



近江八幡市立 金田幼稚園

令和2年度PTA会長

歳嶋 円香

## 1. はじめに

金田幼稚園は、滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東側に位置する近江八幡市にあります。近江八幡市には、織田信長が築いた「安土城跡」、「ヴォーリズ建築」等の歴史遺産や近江商人の活躍を今に伝える「八幡堀」、ヨシ原を和船が行き交う西の湖の「水郷地帯」、日本で唯一の淡水内湖の有人離島「沖島」など風情が薫る景観が各所に広がっています。また、日本三大和牛の近江牛の名産地です。琵琶湖の恵み豊かな町で、J R琵琶湖線沿線にあり、京都から30分で訪れることができます。本園のある金田学区は、J R近江八幡駅周辺に位置し、交通の便もよく商業施設の多いエリアではありますが、近くには栗畑や湧水、田畑も広がり、豊かな自然を感じながら園生活を送っています。



## 2. 園の概要

本園は、昭和39年八幡幼稚園の分園金田幼稚園として創立。認可を受け昭和42年に近江八幡市立金田幼稚園となりました。駅に近い人気の学区で、市内最大の園として、現在の園児数は3歳児・4歳児・5歳児各3クラスで198名です。園庭には一面青々とした芝生が広がり、子どもたちはのびのびと遊んでいます。教育目標に「キラッと輝く金田っ子」を掲げ、一人一人が持ち味を輝かせながら、互いに認め合いともに育ちあう仲間作りを大切にしたい教育が展開されています。また、コミュニティエリアとして、同敷地内に小学校・コミュニティセンターがあり、幼小連携や地域との連携がしやすい環境となっています。園・家庭・地域が一丸となって子どもたちの成長や安全を見守っています。

## 3. 金田幼稚園PTA組織について

金田幼稚園のPTA組織は、本部役員9名、学級委員36名（各クラスから4名ずつ）で成り立っています。本部役員は、会長1名、副会長2名、会計2名、専門部長4名（文化部・環境整備部・保健体育部・人権教育推進部）の合計9名です。

学級委員は、各専門部に部員として所属し専門部長を筆頭に活動します。

専門部の主な活動内容は以下の通りです。

- 文化部…文集「めばえ」の作成、わくわく文庫の管理
- 環境整備部…花壇整備 夏季冬季環境整備活動
- 保健体育部…運動会手伝い あいさつ運動
- 人権教育推進部…絵本の読み聞かせや多文化交流

その他全役員を対象にバザーの開催やベルマークなどの管理・交通安全運動などを行っています。

## ※PTA活動紹介

## ＜バザー＞

金田幼稚園では、毎年10月ごろに保護者や地域の方々を対象にバザーを開催しています。しかし、令和2年度はコロナウイルス感染症が流行しました。様々な事業・行事が開催困難となる中、何とかバザーを開催できる方法はないかと本部役員と幼稚園側で検討し、例年とは違う開催方法で実施に向けて取り組みました。

対象者は保護者のみとし、事前に整理券を配布して4グループに分け、入れ替え制で開催しました。夏休み前からバザー品の回収を呼びかけ、商品を回収し、予定通りに10月にバザーを開催することができました。例年は開催時間が1時間で、多くの人が一斉に商品を買いにきていましたが、今年度は1グループに25名程度の人数制限を設け、各グループ40分ずつバザーに参加してもらう方法で密を避けて開催しました。例年より会場に入る人数が少ないため、ゆっくり商品を見ることができるといったメリットもありましたが、商品をまんべんなく分けなければいけないという開催側のデメリットも発生しました。令和3年度もバザーを開催する予定です。コロナ禍での開催方法を再度見直し、安全にバザーを開催できるよう検討を続けます。

バザーで得た収益は、ホームベンチとはしご兼用脚立を購入し子どもたちの遊びやPTA活動に還元しました。



＜バザー開催＞



＜ベルマーク集計＞

会計が主担当となり、ベルマーク・テトラパック・インカートリッジの回収を行っています。それぞれの収益はPTA会費に加算しています。毎年保護者や地域の方々からのご協力のおかげで、たくさん回収することができています。また令和2年度は、ベルマーク便りがベルマーク便りコンクールで表彰をされ、最優秀賞をいただくことができました。



### ＜あいさつ運動＞

保健体育部が2学期はじめと3学期はじめの登園時にあいさつ運動を行っています。園児たちも大きな声であいさつしてくれ、笑顔いっぱい元気いっぱいな姿につながっています。



### ＜除草作業・花の植替え＞

環境整備部が中心となり、花いっぱい運動として花壇の除草作業や花の植替えを行い、園環境の充実を図りました。



### ＜夏季・冬季環境整備作業＞

環境整備部が中心となり、園内外の環境の美化に努めています。各世帯に夏季・冬季の環境整備参加への出欠のアンケートをとり、名簿を作成します。各世帯から一人ずつ一回だけ参加していただいています。



### ○夏季環境整備作業

夏休み最終土曜日の午前中に実施し、園内作業は、各教室の窓ふきや拭き掃除等を行います。園外作業は、敷地内の草刈りや木の剪定、溝掃除等を行っています。



### ○冬季環境整備作業

冬季は、平日の降園後に実施しています。作業実施中に園児の預け先がない方にも参加していただきやすいように、幼稚園側の協力も得て、作業中は別室で在園児の託児を行っています。

### ＜園児に対しての絵本の読み聞かせ活動＞

人権推進教育部が学期に一回ずつ全クラスを対象に開催しています。図書館とも連携を取り、読み聞かせ研修会を開催し、そこで得た学びを活かして、園児たちに読み聞かせを行いました。対象学年に応じた絵本を担当者たちで選び読み聞かせを行いました。



### ＜多文化交流＞

人権教育啓発活動の多文化交流では、『みんなちがってみんないい』をテーマに揚げ、年齢ごとに分かりやすい内容のペーパーサートや絵本の読み聞かせを行い、肌の色・性別（女の子らしく、男の子らしくなどの考え方にとらわれず、ありのままですばらしい）・容姿の違いはそれぞれのキラッと輝く大切な個性であることを伝える取組を行いました。



### ＜文集「めばえ」の作成＞



5歳児を対象に毎年文化部が中心となって作成しています。フリーペーパーを各家庭に配布し、親子で話し合いながら自由に作成します。子どもたちの成長や思い出のつまった素敵な文集に

なっています。

### ＜交通安全活動（旗当番）＞

登降園時は基本的には徒歩や自転車でもらうよう保護者をお願いしていますが、未就園児のいる方や妊娠等の事情がある方を対象に駐車許可証を発行しています。駐車場の出入り口は、子どもたちが飛び出す危険性があるため、交通安全を目的に毎年旗当番をPTA会員の協力のもと行っています。PTA会員がPTA活動に参加する機会が少ないため、全世帯年に1回ずつ協力いただき、親同士の交流の場、PTA会員であるという認識をもち、PTA活動を知ってもらう機会としています。



### ＜運動会＞

子どもたちが楽しみにしている運動会。保護者の皆様の協力のもと、様々な感染予防対策をして開催しました。

- ・各家庭2名までの参加
- ・入場後各学年に分かれて受付、検温と人数確認
- ・マスク着用・消毒の徹底
- ・弁当はやめ、午前での開催とする
- ・シート等を広げての場所の個別確保はやめる
- ・ソーシャルディスタンスを意識して広がり、園庭全体を立見席とし、2階テラスも開放する
- ・観覧席を設け、学年の競技毎に入れ替えを行う
- ・私語は控え、拍手での応援

保護者の皆さんに協力していただき、無事に運動会を実施することができ、子どもたちの一生懸命な姿や楽しんでいる姿を見ることができました。

## 4. 課題とまとめ

PTA活動・園の行事においても、コロナウイルスとの戦いに始まり、試行錯誤を繰り返す日々でした。一年を通して、当たり前だと思っていた毎日が当たり前ではなく、かけがえない日常だったと実感しました。

感染症予防対策、活動内容の変更等、園とPTAとで検討を重ね、ゼロからのスタートでしたが、緊急事態宣言発出後の休園を経て、6月に子どもたちの元気な声と可愛らしい笑顔が園庭に溢れた際は、喜びで胸がいっぱいになりました。子どもたちの笑顔のために、少しでも多くの経験と楽しい思い出が残るように、今後もコロナ禍の中でできることを考え、試行錯誤し、楽しみながらPTA活動を行っていきたいと思います。一日でも早く安心安全な毎日が戻ることを願っています。



# パネルディスカッション報告

## パネリスト

### 山本健司様

(文部科学省総合教育政策局  
地域学習推進課 青少年教育室 室長補佐)

### 箕輪 恵美 様

(全国国公立幼稚園・こども園長会長)

### 山崎 篤史

(全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長)

### 大島 洋平

(新潟大会運営委員長)

## コーディネーター

### 猪木 直樹

(前全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長)

**猪木：**この全国大会は新潟の地において皆様と一緒にいろいろ勉強したかったところですが、コロナ禍のためリモート大会ということになりました。様々な事情で、実際に全国大会に行けない方でも、研修の機会を得られたわけですから、そういう面ではリモート大会もメリットがあると感じています。皆様にとって何らかのヒントを提供できるものになればと思っています。よろしくお願いいたします。

**大島：**新潟の大島です。

開催地である新潟県はすごく縦に長く、北端から南端まで330キロぐらいあると言われています。縦に長い分、いろいろな地域性があります。方言もいろいろあり、食べられている物も異なります。四季がはっきりしていることも新潟県の特徴の1つです。

幼稚園・こども園のPTA活動の特徴としては、全国同様、コロナ禍での自粛の傾向になっています。また、少しネガティブな話になると、新潟県も共働きの率が6割近くになってきており、子どもが14時ごろ降園する幼稚園については、園児がかなり減少してきています。

**猪木：**ただ今、新潟県の現状を含め、いろいろなお話をお聞きすることができました。四季折々の風情、その地域ごとに感じ取られる風情というものは、親としてしっかりと次の世代に伝えていきたいものの1つであると常々感じています。新潟の地は、四季がはっきりしているため、伝えられるチャンスが多く、素晴らしい環境だと思います。

コロナ禍だからこそ、たよりや会報に写真を付けて出しているという活動が紹介されました。保護者にすれば、園での子どもたちの様子が目に見えて分かるので、これは1つの方法、手段としてよいと思いました。今やSNSの時代ですので、そのようなツールを使うのも1つの手でしょう。ただし、

これに関してはいろいろ規制もかかることなので、慎重に見極めていかなくてはいけないと感じています。

先程、埼玉県、千葉県、滋賀県の3園の提案発表でいろいろなことが我々に示されました。

子育ての場として、地域、園、そして家庭がある中で、家庭教育は非常に大切であると感じています。その辺りを踏まえて、先程の発表の感想も含め、我々に対してご助言ください。

**山本：**文部科学省の山本です。

提案発表いただいた3園とも、コロナ禍においても非常に精力的に、様々な取組みをされていることに大変感嘆しました。

まず埼玉県の嵐山幼稚園さんでは、新型コロナウイルス感染症の影響下で皆さんが不安を抱える中、地の利を生かして、赤十字の方に感染症についてご講演をいただくなど、そのときの状況に応じた新たな取組みを実践されている点が非常に素晴らしいことではないかと思いました。

次の千葉県の明海浦安の認定こども園さんは、地域柄、地縁、血縁が薄い地域のため、地域との連携にはそれだけハードルが高いかと思います。そのような中、地域の方と様々な連携をしていることは、PTAの皆さんや園の意識が非常に高いからだろうと思いました。コロナ禍におけるZoomを使っている防犯についての情報共有や、近くの公園の花壇の苗植え、田植えや稲刈りといった多様な取組み等、豊かな体験を子どもたちに提供できている点が素晴らしいと思います。

また、滋賀県の金田幼稚園さんは、これからグローバル化が進展し、様々な文化や言語、そういった違いのある人たちと共に生きていかなければいけない社会が訪れる中で、こちらの幼稚園が取り組まれていた多文化交流は、非常に素晴らしい取組みだと思いました。

**箕輪：**全国国公立幼稚園・こども園長会長の箕輪です。

大会の冒頭には、新潟県内の園のPTA活動を映像でご紹介いただき、新潟に身を置きながら大会に参加している気持ちになりました。3園の発表を聞いて、どの園の活動も「子どもたちのために」という思いが核にあることが、一園長としても大変うれしく、子どもを育てる同士のようない思いを新たにしました。

嵐山幼稚園の発表の中で、目指す保護者像をしっかり掲げられていることに感銘を受けました。子どもを成長させよう、子どもを変えようということではなくて、保護者の方が自ら成長されることで子どもたちが自然に成長していく、そんな雰囲気は嵐山幼稚園はつくられているのだと感じました。

また、明海認定こども園では、役員が全員2号認定の方であり、仕事を持ちながらでもできる、誰でもが参加できるようなPTA活動を工夫されているということも、これからの幼稚園・こども園で非常に参考になる取組みではなかったかと思います。行政の絆づくり、ふるさとづくりを園やPTA

活動でもきちんと受け止めながら、地域の核になるような活動をしっかりとされていることも印象に残りました。

また、金田幼稚園では、コロナの中でもバザーの活動を中止するのではなく、「できる形でやってみましょう」という前向きな姿勢が、子どもたちを取り巻く大人として持たなくてはいけない姿勢であり、それを昨年度の段階でいち早く実行されていたところに力強さを感じました。そういうところを私たちも見習いながら、子どもたちのために力を尽くしていくことをこれからもやっていきたいという印象を受けました。

**猪木：**これから日本の世の中は、Society 5.0の社会が訪れるといわれています。20年、30年後というと、今の園児が社会に出るまさにその時代です。

「どんなことがあっても生き抜く力を育てる」という国公立幼稚園・こども園の教育方針、これには期待する部分がたくさんあります。未来に向けて羽ばたく子どもたちの力を、幼児期から質の高い教育で提供していくという国公立幼稚園・こども園の考え方、そういった部分を含めて、国公立幼稚園・こども園の良さを全国の会員の方々に改めて教えていただければと思います。

**箕輪：**幼稚園・こども園の教育は、教科書があって、それを教えていく形ではなくて、子どもたちが日々の園生活の中で、自分たちの身の回りの人であったり、ものであったり、出来事に自分からかわっていきます。直接体験の中で、感じたり、考えたり、時には壁にぶつかったり、それを乗り越えたりという体験を着実に積み重ねていくことが、生き抜いていく力の主になる部分ではないかと考えます。私たちはその部分に重きを置いて、日々の教育に当たっています。なかなか数字に表わして「これだけ育ちました」という、教科の通知表のような形で示すことは難しいですが、幼児期に、人として生きていく上での力の大元の部分、原体験になるような部分の体験を豊かにしていくことによって、小学校以降の学習意欲にもつながっていきます。

これからの社会は、情報化がどんどん進みます。その一方で人間は自然の一部なので、謙虚な気持ちをもち、想像力を駆使して新しい未来をゼロからつくっていく、そういう力が大事だと思います。そのためには、幼児期に直接体験を通して実感を伴って感じたり、考えたりを毎日積み重ねることが大事だと思います。

教科書はありませんが、幼稚園教育要領という文部科学省で示されている大きな方向性があります。全国の国立・公立の園では、そこに書かれている内容をしっかりと理解して、質の高い教育を提供できています。国立・公立の園では、子どもたちの人生の基盤になるところの力を毎日の教育の中で培っていますので、安心してお子さんを預けていただけたと思っています。

**猪木：**今、日本の国においてもSDGsという言葉をよく耳にされると思います。そういう部分を含めた上での子育てを認識した上で実行していかなくてははいけません。この辺りの

ことをPTAを通して、保護者がしっかりと考えを構築し、より良い子育て環境を構築していく必要があると強く思います。

本日は全国各地の方がお聞きいただいていると思います。幼児教育においていろいろな諸問題等があるかと思います。国が示すこと、市町村が示すこと、そういったところの関係性についてご助言ください。

**山本：**文部科学省は、幼稚園教育の全体像として、幼稚園教育要領を定めて、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、また学びに向かう力、人間性の育成といった後々の成長につながる基礎を幼稚園段階、幼稚部段階で育成することで全体の教育要領をつくっています。

横澤富士子さんの講演にもありましたが、家庭はあらゆる教育の基礎となるものですので、保護者として取り組んでいかなければならないこと、留意しなければいけないこと、幾つかのポイントがあったと思います。まずは規則正しい生活、そして愛情を込めて子どもたちに接していくというのが、家庭に求められることではないかと思います。

**猪木：**文部科学省が推奨している「早寝早起き朝ごはん」に、我々は組織として継続して推奨していきたいと思います。

新会長の山崎さん、今現在の思い等を含めてお話しください。

**山崎：**全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長の山崎です。

まずは嵐山幼稚園、明海認定こども園、金田幼稚園の皆さん、動画発表の準備等、ありがとうございました。

嵐山幼稚園のPTA活動については、教育目標が具体的に書かれていて、大変素晴らしいと思います。まず目に止まったのが、「子どもの心を受け止める保護者」と掲げているところです。これは前段の横澤先生が全く同じことをおっしゃっていました。第2階層の心のところで、感情を受け止めることが必要だと説明されていました。嵐山幼稚園さんはまさに脳科学の理にかなった具体的な目標を立てているという点で素晴らしいと思いました。また、子どもたちが野菜の水やりや観察をする活動を通して、「気付く目」を育てているということも、素晴らしいと思いました。

次の明海認定こども園では、有志活動を強調して発表されており心に残りました。ビオトープでの田植えや稲刈り、また、刈り取ったわらでしめ縄を作るといった活動は大変素晴らしいと思います。

明海認定こども園さんでは、多くが埋立地でできているという地域柄、マンションに住まわれている家庭が多いということでした。地縁、血縁が希薄な傾向にあり、古き良きふるさとの原風景自体を子どもたちは実際に見ずに育っているかもしれません。しかし、それを知るおじいちゃんやおばあちゃん、保護者の世代がイベントとしてでも子どもに体験させて、子どもたちのふるさとづくりをするという活動は大変素晴らしいと思いました。

最後に金田幼稚園の発表では、あいさつ運動について書かれていました。横澤先生の講演の中にもコミュニケーション



という言葉がありました。私はコミュニケーションの最も端的なやりとりである、会話の起こりがあいさつだと思っています。横澤先生は、コミュニケーションの中で、訳の分からない気持ちや言葉が分かるようになっておしゃっていました。園長先生や園の先生方も、保護者や子どもたちに朝や帰りのあいさつをされると思います。そのあいさつによって、子どもが家でどのような生活をしたのか、その子の体調をおもんばかっていると思います。そういう点でもあいさつはとても大切なことだと思います。私も企業で採用担当の業務をしています、あいさつがきちんとできる、まずはあいさつでコミュニケーションを図れることが、一番大切なのではないかと思います。このような形で幼児教育の現場であいさつということをしきんと書き、活動しておられることは心強いと思いました。

子どもたちの笑顔のために、少しでも多くの経験と楽しい思い出が残るように、コロナ禍でもできることを試行錯誤しながら、活動を行っていきたくと書かれています。私もまさにそのとおりだと思います。変化の激しいこの時代、コロナ禍という時流の中で、子どもたちの笑顔をつくり、子どもたちが楽しい体験、経験ができるようにするには、大人としてどうかかわっていけばいいのかをまとめて書かれています。保護者の皆さんが子どもたちのことを思って、工夫をしながら、また苦勞しながらでもイベントを継続させて、引き継いでおられていることをとても心強い思いで聞かせていただきました。

**猪木：**ありがとうございました。山崎会長も横澤先生の講演の内容を取り上げておられました。横澤先生の講演から感じられたことは、多岐にわたっていると思います。それぞれが「これは」というところがあれば、日頃の生活に取り込んでいたきたいと思います。

横澤先生の話の中に、「糸魚川に育ててもらった」という言葉がありました。地元を愛する心は、本当に大切であると思いますし、地方創生が叫ばれている中において、子どもたちにも自分のふるさとを好きになってもらうような取組みが、親として、地域の人間としてできればいいのかなと感じました。

また、横澤先生から、「お父さん、頑張れ」というような話もありました。男性として、しっかりと子育てに携わっていかなくてはいけないというお話でした。同じ子を持つ親として、横澤先生の言葉に対して何かコメントはありますか。

**山本：**男親の役目として、怒るということではなくて、なぜそうしなければいけないのかをできるだけ子どもに分かるように、そのためには自分が納得しないといけないと思いますが、自分が納得する言葉できちんと子どもに説明しないと聞けないと痛感した次第です。

**猪木：**横澤先生の講演をお聞きになられた全国のお父さん、お母さんは、しつけに対してもしっかりと子どもたちに伝えていかなくてはいけないと思われたことでしょうか。そうすることで、大きな意味での、いい社会が来ればと思っています。全国の幼稚園・こども園のPTAにおいては、おやじの会や

男性としての子育てへのかかわり方に対して、いろいろな事例をもっています。何らかの機会に情報を得ていただき、自園のPTAでよいものを引き継いで欲しいと思います。

最後にそれぞれの方から、立場を通してお言葉をいただければと思います。

**山本：**熱心かつ精力的に取り組んでおられるPTAの皆様、この活動がコロナ禍ではありますが、引き続きうまくいくことを心よりお祈りしております。文部科学省としましても、今後も幼児教育の振興や家庭教育の振興に努めてまいります。

**箕輪：**全国の国立・公立の園の教育がしっかりと子どもたちにより教育ができているのは、発表いただいたようなPTA活動、あるいは父母の会のような活動が幼稚園・こども園の教育の歯車とがっちり合いながら、一緒に子どもの育ちを支えているからではないかと思っています。それが国公立の強みだと思っています。また、情報提供いただいたことをお互いにより刺激にして、よりよい子どもたちの成長を支える活動が広まってほしいと思っています。

全国の国立・公立の園は少子化の波を受けている部分があります。もっと多くの方が入園しやすいように、3年保育の枠や預かり保育を拡充していくことも、園長会として、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

**大島：**今回はオンラインだからできたこともたくさんあったのではないかと思います。決してネガティブに捉えるのではなくて、前向きに捉えていきたいと思っています。

**山崎：**コロナ禍においても、子どもたちがいろいろなたくさんの体験をさせていただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

日々の生活で若い保護者の皆さんは大変だと思います。子どもたちに体験させるよりも、自分たち大人がやった方が効率が高く、早い作業はたくさんあるわけです。それでもあえてお手伝いをさせ、お手伝いしてくれたら「ありがとう」と褒めてほしいと思います。そうすることによって他人が喜んでいる姿、ありがとうという言葉をかけてくれることに対して喜びをもてる子どもに、大人に、人間に育っていつてくれると思います。子どもは、うまくできないことがたくさんあるのは当然だと思いますが、温かい目で見守ってください。

保護者の皆さんも、それぞれ自分たちの生活で大変な状況だと思いますけれども、子どもたちが元気に笑顔で育つように、全国の国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の皆さんにご協力をいただきたいと思っています。

**猪木：**本日のリモート大会を通して、全国の保護者の皆さんには得るものがあったのではないかと思います。ぜひ自分の地域に返していただきたいと思っています。

そして、我々全国の組織として、国に、文部科学省にいろいろ提言をしながら、一緒になって未来の子どもたちをしっかりと育てていく、その環境づくりにこれからも邁進していきます。これからもどうぞ全国の国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会をご支援いただきますようお願いいたします。全ては子どもの笑顔のために。

## 令和3年度優良PTA文部科学大臣表彰

おめでとう



## 令和3年度優良PTA文部科学大臣表彰被表彰団体一覧

群馬県 桐生市立西幼稚園PTA

東京都 江東区立豊洲幼稚園父母の会

東京都 江戸川区立船堀幼稚園PTA

静岡県 静岡大学教育学部附属幼稚園PTA

大阪府 大阪市立鞠幼稚園PTA

兵庫県 西脇市立しばざくら幼稚園PTA

岡山県 岡山市立古都幼稚園PTA

徳島県 石井町浦庄幼稚園PTA

香川県 高松市立栗山幼稚園PTA

愛媛県 川上幼稚園PTA

高知県 高知市立かがみ幼稚園PTA

佐賀県 吉野ヶ里町立東脊振幼稚園PTA

長崎県 長崎大学教育学部附属幼稚園育友会

つなげよう PTA活動への思い  
～子どもたちの健やかな成長を願って～

高知市立かがみ幼稚園

園長 上田 佳代

この度、令和三年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。このような名誉ある賞を受賞することができたのは、歴代のPTA役員・会員の皆様の努力と地域の皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝しております。

本園は、高知市唯一の公立幼稚園で、自然豊かな山間部、鏡ダムの近くにある園児数24名の小規模園です。鏡地域にある保幼小中での連携はとりやすく、合同での行事も行っています。また地域との繋がりも強く、地域の園として支えていただいています。近年は園児数の減少、共働きの増加により運営の難しさも出てきていますが、「子どもたちのために」という思いを引継ぎ、PTA活動のあり方を模索し協力しながら運営しています。

## 【組織の紹介】

PTA役員として、会長・副会長(会計兼務)・各クラス2名の理事を選出し、役員をパイプ役とし保護者の意見や要望を反映させながら運営を行っています。役員選出にあたっては、交代しながら一人に負担が偏らないように配慮していま

す。また、3歳児クラスは農園、4歳児クラスは運動会・卒園修了式、5歳児クラスはなつまつり(二年度よりあきまつりに変更)というように事業を振り分け、PTA中心に進めています。会員数の減少により、方法の見直しや、全会員に協力の呼び掛け、会員の得意分野を活かすなど工夫して取り組んでいます。年度末には新旧の役員の引継ぎを行い、組織に経験者を入れるなどスムーズな運営・引継ぎができるように配慮しています。

## 【あきまつり】

例年開催してきた「なつまつり」を新型コロナ感染拡大予防のため中止としました。しかし、この中で実施していた年長組親子で開くお店屋さん、年長児が店長としてお店を切





り盛りすることで育つものがたくさんあることから保護者の理解・協力のもと「あきまつり」に変更し、内容・時間も短縮して行いました。親子でお店の内容を決め看板作りやお店の準備をすることで子どもたちの期待も膨らみ、当日は3・4歳児親子のお客さんとやり取りを楽しみながら、心に残る時間を過ごすことができました。

### 【保護者中心の運営】

クリスマス会のPTAの出し物は、「子どもたちを楽しませたい」の思いから20年以上前から続いています。世話役を中心に、子どもたちの興味あることを把握し、内容・役割分担を保護者の得意分野も考慮しながら全保護者が参加できるように考えています。二年度は、「合奏」「影絵」のグループに分かれ、準備を進めましたが、新型コロナ感染が拡大状況のため、やむを得ず中止とし、子どもたちの発表のみとなりました。また、運動会のパネル作りや準備係、テーマに合ったPTA競技の内容や準備等、毎年趣向を凝らして行っています。PTA競技にも全家庭が参加し、パフォーマンスをする保護者もあり親子共に楽しい運動会となっています。

### 【保護者の積極的な学び】

家庭教育学級として「親子ふれあい遊び」「親子の絆教室」を実施しました。「親子ふれあい遊び」は、今回も多くのご家庭が参加し、親子の笑顔と笑い声に溢れました。内容については、役員がとったアンケートをもとに偏らないよう配慮しています。また、母親達からの「父親も学ぶ機会を」との要望で三年前より「お父さんの子育て講座」を実施しています。父親同士が顔を合わせて子育てのことを気軽に話をするすることで、繋がるきっかけにもなっています。

南海トラフ地震に備えて、親子で救急法や起震車体験で防災について学んだり、全家庭参加の引き渡し訓練を実施したりしています。学期に1回実施している生活リズムチェックカードも殆ど親子が取り組み、また休日前に実施している絵本の貸し出しは、家での絵本タイムとなっています。月末に記入してもらおう保護者向けの読書カードには、全家庭から

感想や子どものつぶやきなどの記入があり、心通わすひとときとなっている様子が伺えます。

### 【地域との連携】

幼小中PTA連絡協議会という組織があり、連携をとりながら、環境整備や地域の行事にも参加しています。その組織のおかげで、保護者同士・地域と繋がる機会にもなっています。そして、毎年地域の方のご厚意で泥田遊びや梅採り、栗拾いなどをさせてもらっています。鏡名産の梅は、家に持ち帰って梅ジュースや梅干しなどにして子どもと一緒に味わうことができました。

また、親子遠足では、鏡ダム・公民館で地元出身書家のギャラリーを見学しました。ダム事務所の方や公民館長さんが、わかりやすく話してくれたことで、楽しく充実した親子遠足となりました。

さらに、園内にある木の伐採に悩んでいたところ、保護者から地域の方に声をかけてくれたことで作業へと繋がりました。ここに記載したことは、ほんの一部ですが、園は地域に支えられ、園・PTA・地域が相互の連携を大切にしながら取り組むことで、子どもたちは豊かな経験をすることができています。

### 【終わりに】

「子どもたちのために」と続けてきた様々な事業、学びへの参加などを小規模園で継続していくには難しさもあります。しかし、親子で楽しい経験を重ねることで、保護者も充実感を味わい、子育ての楽しさに結びついていくように感じます。歴代のPTAから引き継いできたその思いを繋げていくことが価値あることであり、良好な親子関係に繋がっていくと考えます。今後も子どもたちの健やかな成長を願い家庭と園とが連携・協力し、ともに育つPTAを目指していきたいと思っています。



## 地域に愛される子どもたち・幼稚園に！

佐賀県吉野ケ里町立東脊振幼稚園PTA

園長 多良美保子

新型コロナウイルス感染症によって私たちの生活スタイルや子どもたちの遊び、行事に至るまで様々なことが制限され、不安が大きく広がった令和2年度。これまでのような活動ができない中、PTA活動も手探りで行うことになりました。そんな時、『先生、“コロナだから何にもできない”ではなく、“コロナでもできる”を合言葉にやりましょう！』と、沢山のアイデアを持ち寄り、協力して下さったPTA会長を始めとする保護者の皆様。そうして積み重ねてきた活動に令和3年度優良PTA文部大臣表彰をいただくことになり、大きな励みになりました。

現状を嘆くのではなく、常に前向きに力を貸して下さる存在には感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、本園のある吉野ケ里町は、佐賀県の東部に位置し脊振山系と佐賀平野の二地域からなります。日本最大級の環濠集落遺跡『吉野ケ里歴史公園』や『アドベンチャーバレーSAGA』、温泉等の観光施設や豊かな自然に恵まれ、子どもたちはのびのびと過ごしています。

園児数は現在70名で、満3歳児から5歳児まで賑やかに過ごしています。多くの町民が親子数代にわたって本園に通園されており、保護者の中には卒園児が毎年数名ずつ居る状況です。“自分たちが経験してきたことを今度は我が子にも体験させたい”との思いを耳にすることも多く、長年にわたって先輩の先生方や保護者の皆様が積み重ねてこられた取り組みに頭が下がる思いです。

また、本園のPTA組織は、会長1名・副会長2名・監査委員3名・学年委員6名の合計12名を本部役員とし、その他の会員は一人一役（ひと家庭一役）として運動会・夕涼み会・クリスマス楽しみ会・給食献立部会・絵本読み聞かせの5つの専門部のうちいずれかに所属し、全家庭が園の活動を支えてくださっています。ここでは、保護者、地元企業、地元農家等との連携による子どもたちの体験活動を紹介致します。

### 【木工ワークショップ】

普段ならワクワクする経験がたくさんできる夏休みですが、コロナ禍で出掛けたり集まったりすることが難しくなったため、せめて園で何かできないかと、会長さんと相談しながらアイデアを出し合いました。幸い、本園の周りには木工所や住宅メーカーなどが沢山あり、そんな地元企業さんの協力を得て不要になった木材を分けていただくことにしました。地元企業さんからは、『もう廃棄してしまう木片が子どもたちの役に立つなら』と快く譲っていただきました。

また保護者にも呼びかけて材料を集め、普段なかなか経験することがない釘や金槌、のこぎりなどを使う木工ワークショップを行うことにしました。また、開催日を複数日設けることで、多くの参加者で密にならないように工夫しました。当日は、豊富な素材や道具に瞳をキラキラさせながら夢中になって製作していました。子どもたちに経験をさせながらも、難しいところは大人の出番です。嬉しそうにのこぎりや金槌の使い方を教えるお父さんの顔も誇らしげでした。どの子ども思い思いに出来た作品と満足そうな笑顔が印象的でした。



### 【積み木作り】

木工ワークショップでは、使いきれない程の木材を提供していただきました。その中でも住宅用の木材は表面が滑らかで手触りが良かったため、子どもたちが普段よく遊んでいる積み木を製作することにしました。

まず、会長さんと二人で様々な種類の大きさに木片をカットし、そこからは多くの保護者の協力でカット面のやすり掛けをしていただきました。根気のいる作業でしたが、「子どもたちが遊ぶ姿を想像したら楽しくなります。」「こんなに香りのいい木で遊べていいですね。」と言って楽しみながら作業を進めてくださいました。

出来上がった積み木は、数百個になり、子どもたちが大喜びで遊び始めたのは言うまでもありません。積み上げたり何かに見立てて遊んだりすることはもちろん、床に寝ころび、その周りを積み木で囲って木の香りに癒されている姿も見られ、心まで満たされていることがよくわかりました。

地元企業さんからは、その後も折に触れて気にかけていただき、『餅つき会の薪にどうぞ』と木切れをいただいたり、『来年もワークショップをするなら木片はとっておくよ。』と声をかけていただいたりしています。

子どもたちのために協力を惜しまない地元の方や保護者に感謝の気持ちでいっぱいです。





## 【田植え・稲刈り】

毎年、6月になると年長組は田植えに出かけます。地元農家さんに水田を借用し、田植えの体験をするのです。

幼稚園から水田までは数百メートル。散歩をするにはちょうど良いくらいの距離です。ここなら歩いて移動できるし、田植えの後は稲の生長を見に行くこともできるので大変ありがたい場所なのです。

子どもたちが水田で泥んこになることは、佐賀の田舎でも珍しい光景となり、今となっては貴重な体験でもあります。思う存分泥んこの感触を楽しみながら苗を植えていきました。



秋になると稲刈りに出かけ、黄金に実った稲を本物の鎌を使いながら丁寧に刈り取っていきます。鋸鎌を使用するので安全面には十分な注意が必要ですが、子どもたちは案外慎重に使うものだと感心します。本物を使うことが子どもたちを真剣にもさせてくれるようです。

稲刈りを終え、「ちょっと難しかったけど、できたよ!」「あんなに小さかったのに、よくこんなに大きくなったよね。」「早くご飯が食べたくなった!」と話す年長組からは、やはり誇らしげな表情が見られました。少し難しいことや初めての経験をすること、そして、それをやり遂げたことがこんなにも心を豊かに成長させてくれるものなのかと思いました。

本園が経験させていただいているのはもち米です。例年は自分達で育てたもち米を使い、地元老人クラブや地域の方、保護者の協力を得て餅つき会を開催しています。残念ながらコロナ禍に於いては食にまつわる行事の開催が難しかったため、鏡餅を作って新しい年を迎える準備を体験しました。

この行事は、本園が開園間もない頃から続いており、子どもたちの体験のために毎年快く水田を貸して下さる地元農家さんの協力なしにはできない行事で、何十年にも亘って続けてこられたことに心から感謝しています。



## 【徒歩降園・交通マナーの定着】

本園には園バスがありません。園バスがないことは保護者にとって不自由であり、園選びにも影響するところかもしれません。しかし、本園では園バスがないことをむしろプラスと捉えており、“積極的に足を使うチャンス”だと話しています。4歳児以上は、降園方法の一つに“歩き”を選択することができます。降園コースを4コース設け、職員が引率しながら保護者の待つ所定の場所までの約1キロメートルを歩きます。保護者の協力もあり、安全な場所での迎えも徹底していただけるため、暑い夏も雪の降る日もその時々季節を感じながら喜んで歩いています。

本園が小学校に隣接していることから、小学校の下校コースとも重なり、就学してからの下校に不安が少ないという話もよく聞きます。入学前には、通学路を子どもと一緒に歩いてくださる保護者も多いのですが、「よくルールを知っていますよね!」「ここでは一回止まるんだよと、こちらが教えてもらうこともいっぱいあって驚きました。」等の声もよく聞かれ、交通ルールも積み重ねると当たり前になっていくのだと実感しているところです。

また、地域の方や地元商店の方々に出会うことも多く、挨拶をすることや実際の道路を横断することで交通ルールを守ること自然に覚えていきます。園児の安全確保のために、職員には負担が大きくもありますが、これからも続けていきたい伝統の一つです。

## おわりに

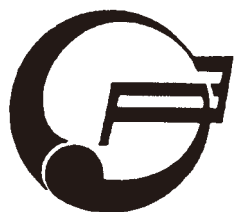
本園では、今回紹介させていただいた事例以外にも、地域や保護者の皆様に協力をいただきながら、様々な行事に取り組んでいます。

保護者の就労率は年々増加しており、実際はPTA活動への協力は難しい面もあるかもしれませんが、一人一役（ひと家庭一役）として全会員の協力を得ています。

しかし、実際には赤ちゃんが居られる家庭や妊婦さん、闘病中の方や介護をされているご家庭など様々な事情で参加が難しい方も居られます。そんな時は協力できる人達で互いにカバーし合い、“参加できる時がきたら、その時に協力してもらえばいいですよ”というスタンスで、声掛けをしています。保護者同士の和気あいあいとした雰囲気も魅力的で、敬遠されがちなPTA活動が長く続いていく秘訣でもあるようです。

今後も家庭・地域の方々・幼稚園が共に手を携えて、子どもたちが笑顔になるような活動ができたらと思っています。

最後に、PTA活動やPTA役員になることが負担ではなく楽しみの一つになるように、魅力的な幼稚園・魅力的な先生であるように努めていきたいと思っています。



全国国公立幼稚園・こども園  
PTA連絡協議会章

## 第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

# 山口大会ご案内

大会主題 見ちよる 聞いちよる 話しちよる  
子供の明日 無限の未来  
～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～

期日 2022(令和4)年8月5日(金)・6日(土) 場所 下関市生涯学習プラザ 海のホール



後援: 山口県

### 第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会

実行委員長 板井 佑介

第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会実行委員長の板井佑介と申します。

関係各位におかれましては、平素より国公立幼稚園・こども園のPTA活動に対するご理解・ご協力を賜り心より御礼を申し上げます。

さて、昨年度の富山大会の中止、本年度の新潟大会のYouTube配信での開催に続き、令和4年度は記念すべき第60回の全国大会を山口県下関市にて開催いたします。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まって2年余り経ち、全国的にワクチンの3回目接種が始まるところで第6波の感染が急拡大していますが、夏までには収まってくれることを祈りつつ、大会会場の開催の予定です。(大会前日の情報交流会は中止いたします。)

少子高齢化の進行、核家族化の進展による地域でのつながりの希薄化が進む中、DX化によってますますその傾向が強くなっていくように思われます。

そのような中で、全国の幼稚園・こども園のPTAが集い、学びを深めて交流できることは、たいへん意義深いものだと考えます。

山口県は本州の最西端に位置し、三方が海に開かれ、東西に中国山地が走り、大きくは、瀬戸内海沿岸地域、内陸山間地域、日本海沿岸地域の三つに分けられ、気候は概して温暖であり、風水害や地震も比較的少なく、全体として住みよい県と言われています。

山口県の更に最西端に位置する下関市は、豊かな自然環境に恵まれると共に、多くの歴史遺産を有する歴史と海峡のまちです。本州四端の一つである最西端の地は下関市の「毘沙の鼻」です。

三方(関門海峡・瀬戸内海[周防灘]・日本海[響灘])を海に

開かれ、フク(河豚)・ウニ・クジラ・アンコウ・イカの五大ブランドを中心とした食文化にも優れています。

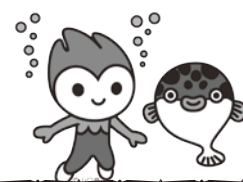
テレビCMにも登場する人気観光地である「角島」、多くの温泉もあり、下関は「源平壇ノ浦の合戦」「巖流島の決闘」「明治維新」と、日本の歴史が動く時の舞台になっており、その史跡も多く存在しています。

また、金子みすゞ、林芙美子、田中絹代、木暮実千代、藤原義江、田上菊舎、林伊佐緒を代表する下関ゆかりの先人を顕彰するまちでもあります。

山口県下関市で開催する『山口大会』では、「見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来～親の絆が『ふく』を呼ぶ～」を大会テーマといたしました。子供や地域の方々との関係性で、見る・聞く・話すを「～ちよる」という山口県の方言で表現しました。子供と子供、子供と大人、それぞれが見る・聞く・話すことで子供の生きる力を育むことができます。

下関ではふぐ(河豚)のことを幸福の「福」にかけて「ふく」と呼んでいますが、特に保護者同士の繋がりでの情報共有や連帯感を通して、子供の明るい未来に「ふく(福)」が訪れるようにという願いが込められています。

第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会に、是非とも前日からお泊まりいただき、山口県及び下関市の食をご堪能いただき、大会終了後には各観光地を巡っていただければ幸いです。全国の皆様のお越しを心よりお待ちしております。



事務局  
書記 角屋 純子  
事務局長 守屋 恭子  
会 計 岡本 由美

監事  
青木 博子  
小川 恵  
永瀬 義剛  
小岩井 聡  
清松 督雄  
野々村 卓也  
谷村 利貴  
森瀬 忠克  
中川 博喜

役員  
副会長 山崎 篤史  
大関 敏寛  
中川 博喜  
森瀬 忠克  
谷村 利貴  
野々村 卓也  
清松 督雄  
小岩井 聡  
永瀬 義剛  
小川 恵  
青木 博子  
高谷 靖枝

顧問  
高橋 勝明(元全幼P会長)  
萬里小路伸一郎(元全幼P会長)  
猪木 直樹(前全幼P会長)  
上枝 秀則(元全幼P副会長)  
今井 昇(元全幼P副会長)  
太田 禎彦(前全幼P副会長)  
新司 英子(前全幼P事務局長)  
酒井 幸子(元全国国公立幼稚園長会長)  
岡上 直子(元全国国公立幼稚園長会長)  
池田多津美(元全国国公立幼稚園長会長)  
荒木 尚子(元全国国公立幼稚園長会長)  
岩城眞佐子(元全国国公立幼稚園・こども園長会長)  
関 美津子(元全国国公立幼稚園・こども園長会長)  
新山 裕之(前全国国公立幼稚園・こども園長会長)  
箕輪 恵美(元全国国公立幼稚園・こども園長会長)  
深町 芳弘(元全国国公立幼稚園長会事務局長)  
楚阪 博(前全国国公立幼稚園長会事務局長)  
佐藤 忍(全国国公立幼稚園・こども園長会事務局長)

令和3年度  
顧問・役員のご紹介